

令和5年度第2回逗子市文化振興基本計画調査・評価委員会 議事概要

- 開催日時：2023年（令和5年）9月11日（月）14時00分～16時00分
- 開催場所：市役所5階第1会議室
- 出席委員：伊藤裕夫委員、富岡幸一郎副委員長、山崎稔恵委員、奥野花代子委員
- 欠席委員：なし
- 事務局：文化スポーツ課 香山課長、城田係長、西主事、浅川主事
- 会議の公開・非公開：公開
- 傍聴者数：0名
- 議題：1 令和4年度事業に関する評価について
2 その他
- 資料：【事前送付資料】
 - 資料1 令和4年度評価報告書
 - 参考 令和4年度事業に関する評価報告書 ご意見まとめ【当日配付資料】
 - 次第
 - 名簿
 - 令和4年度（令和3年度対象）逗子市教育委員会点検・評価に関する報告書
 - 逗子文化プラザホール令和4年度事業アンケート報告書

■内容

1 開 会

定数確認
資料の確認

2 議 事

（1）令和4年度事業に関する評価について

<委員長>

令和4年度事業に関する評価について、事務局から説明お願いいたします。

<事務局>

評価報告書全体の構成は、1趣旨、2調査・評価の対象と方法、3総括、4基本計画と対象事業との関係、5評価シート、参考資料からなります。まず、5評価シートについてご審議いただき、その後1趣旨、2調査・評価の対象と方法、3総括等についてご審議いただきます。

5評価シートについて、所管課による自己評価を記入後、委員の皆様から評価に関するご意見をいただきました。「委員会の評価」欄には、皆様からのご意見を事務局でまとめたものを記入しています。皆様からのご意見は、別紙「意見まとめ」として事前送付しております。

皆様には、「委員会の評価」の内容についてご審議いただき、「a. 順調である。」から「c. 順調であるとみなせない。」の評価についても確定していただきます。現時点では1番多かった評価を囲んでいますが、同数のものは記入していません。審議は6つの「施策の柱」毎に進めさせていただきます。

評価の参考として、事業アンケートを送付させていただきました。こちらは、委員会の評価の参考資料として、評価報告書に反映しておりません。ご意見がございましたらお伺いしたいと思います。

① 地域文化の担い手育成について

<事務局>

まず、6ページをご覧ください。施策の柱1つ目の「地域文化の担い手の育成」の項目になります。委員会の評価の欄に皆様のご意見が記載してあります。こちらにつきましては、「a. 順調である。」が3名ということで「a. 順調である。」を選択しております。内容につきまして読み上げます。

- ・コロナ禍が続いた中で、アート便を保育園まで拡大し、受講した児童が公園に来場するという、アート便からホールへという流れが生まれてきたことは評価したい。
- ・今後は、コロナの状況を踏まえつつ、検案の高齢者施設等、より多様な市民へのアプローチを期待したい。
- ・逗子アートフェスティバル 2022 の開催、各種文化関連講座の実施は、当市の文化振興に対する意欲的な姿勢と同時に、市民の搜索、観賞行動への欲求の高さを伺わせる。
- ・市民のアートリテラシー向上に関しては、コロナ禍において自粛を余儀なくされていた。
- ・県立近代美術館との共催による講座も実施され、多くの方が参加された。内容的にも充実しており、評価できる。一方で、高齢化があっただけで、ずし楽習塾講座が終了したのは、地域文化振興の担い手育成という点で寂しい。今後も当市全体の文化環境向上のため、事業の継続を可能にさせる方法を積極的に講じて取り組みたい。

<委員長>

委員会の評価について、報告書の5ページをご覧ください。事前送付の意見を事務局の方で取りまとめたのですが、修正すべき点、あるいは強調すべき点等々がございましたら、ご意見をいただきたいと思います。また、質問等々もあればお願いいたします。その後、議論した上で、評価の「a. 順調である。」、「b. 概ね順調である。」、「c. 順調であるとみなせない。」について確認したいと思います。

まず、アウトリーチに関して皆さん高く評価していただいているので、文章上の表現等々で気になれば言っていただければと思います。

市民のアートリテラシーの向上に関して、美術館との共催の講座、社会教育の方向講座等々、ずし楽習塾の話は私から入れさせてもらいました。私の意図は、10年ほど前から、ずし楽習塾が非常に頑張っていて、市からの委託であるものの数々の講座を運営されてきた。当時においても、高齢化していたが、とうとう辞められてしまって残念だなと思いました。後継となる仕組みを市の方としては、予定しているか確認させていただきます。他の委員の方に特にご意見がなければ、この評価の「a. 順調である。」、「b. 概ね順調である。」、「c. 順調であるとみなせない。」の確認の方に移っていききたいと思います。3人が「a. 順調である。」、1人が「b. 概ね順調である。」であると回答しました。私は、「a. 順調である。」と「b. 概ね順調である。」に迷って「a. 順調である。」に近い「b. 概ね順調である。」の形でつけたものです。ずし

楽習塾の後継者問題の見通しがあるのでなら全く問題ないというところですので、市の方で補足をお願いします。

<事務局>

ずし楽習塾推進の会の後継に当たる団体はございません。必要に応じて社会教育課、市民協働課と連携を取りながら検討してまいります。

<委員長>

生涯学習に関して、教育委員会の方はかなりしっかりした内容のものも作れると思いますが、市民主体だとぼらつき感のある内容になると思いますが、市民自身の積極的な姿勢が生まれてくると思いますので、もし、ご検討があれば、私も参加したいと思いますのでよろしくお願いします。

事務局>

事務局の自己評価としては、コロナ後にだいぶ事業も復活してきたところもあったので、「a. 順調である。」という評価もよいかと考えましたが、やはり、総合計画の方の計画上は企画数が目標に達成していないところがあったので「b. 概ね順調である。」としました。委員の皆様にはコロナの規制の中での活動を高くご評価いただいたところもありますので、「a. 順調である。」でよろしいでしょうか。

<委員長>

自主企画が多い少ないとか言ったことが評価に影響があるかも考えましたが、アートフェスティバルが他の団体とも連携して努力をしているので、ここではあまり問題にしなくてもよいと思います。自己評価より委員会の方が高い評価をつけた形で次の方に行きたいと思います。

② 市民文化活動の活性化について

<委員長>

事務局からご説明お願いいたします。

<事務局>

それでは、9ページを開きください。9ページの1番下の段の委員会の評価になります。

こちらにつきましては、「a. 順調である。」、「b. 概ね順調である。」、「c. 順調であるとみなせない。」の評価について、「a. 順調である。」が2名、「b. 概ね順調である。」が2名と割れておりますので、評価はまだ記載しておりません。内容を読み上げます。

- ・市民の文化活動への理解を深めるための講座やワークショップ、また市民参加の共存のための仕組みづくりが、コロナ禍にあっても手堅く行われたことが認められる。
- ・前々年度、前年度に引き続き、需要高等学校の総合的学習の一環として実施された講座、コンサートの作り方は、将来の市民自身による文化活動育成にもつながる事業として良い企画だと言える。関心を持った生徒を今後どうフォローしていくかが課題である。制作ワークショップの成果を、ホールで開催された交流センターフェア 2022 の県立逗葉高等学校軽音楽部、吹奏楽部発表会において実体験する貴重な機会もプログラミングされ、地域の青少年の文化創造活動を支援する事業として今後も継続されることを期待する。
- ・ZAF の運営を担う逗子アートネットワークの活動も熱心に行われており、トモイクフェスティバルにも

協力するなど、これからの市民文化活動の活性化に向けて重要な役割を果たしていくことが期待できる。このように、様々な市民参加型、共同型事業が展開されていることを評価したい。

<委員長>

これにつきまして、追加のご意見をお願いしたいと思います。特に「b. 概ね順調である。」につけられた方の方で、例えば課題も含めて委員会の評価にきちんと反映されてるかどうかのチェックをお願いしたいと思います。

<山崎委員>

「b. 概ね順調である。」、ではなく、「a. 順調である。」と回答しました。今年度の調査対象は全体的な印象としてはとても順調であると感じました。コロナの中でよく頑張っているなど「a. 順調である。」をつけました。コロナ禍の状況に関しての対応の仕方がある程度ガイドラインが固まってきて、その中で最大限取り組まれたという印象を持ちます。

<委員長>

他に何かありますでしょうか。

<奥野委員>

私は「b. 概ね順調である。」をつけさせていただきました。こういうコロナ禍において「順調である」と表現することに違和感がありました。個人的な感覚なのですが、「b. 概ね順調である。」にさせていただきました。

<委員長>

私は、実は「a. 順調である。」にしています。意見としては、例えば、高校生のワークショップだとか、市民作家の協働のための仕組みがうまくいっています。特に重要なものは、高校と行ったコンサートの作り方。これも2年続けてやってきて頑張っていると思いますけども、学生は毎年変わってきますよね。したがって、ホールの方では毎年やっても、受ける側の方としては、1回だけで終わってしまっています。ここは受ける側の方の立場に立ったプログラムを作っていないと、その生徒さんたちが大人になって、社会人になった時にステップアップしていけるかどうかというところが気になるのかなと思ったので問題があると思います。しかし、これについては時間かけて考えていくものだと思いますので「a. 順調である。」にしたという状況です。

確かに奥野委員が言われるように、コロナ禍で最大限頑張っているという書き方をしてきたのですが、この辺はどうしますか。

<奥野委員>

評価は少し抑えておいた方がよいとは思いました。「a. 順調である。」をつけると、来年にもっと素晴らしい「a. 順調である以上」の評価になってしまうと思います。

<委員長>

他には自己評価の方は「b. 概ね順調である。」になっていますが、理由はどのような点でしょうか。

<事務局>

コロナ禍であっても事業を何もできなかったわけではないというところと、あとは、内向きの活動はできていても、外向きの活動ができていたかということ、そこを課題と捉えたので、自己評価は「b. 概ね

順調である。」としました。事務局としては、様々な活動が見られて「a. 順調である。」に近い気持ちで「b. 概ね順調である。」としました。

<委員長>

確かに、逗子アートフェスティバルに対する評価のところで、逗子アートフェスティバルはものすごく頑張っていて、市民も活性化していますけど、偏っているなっていうのは、どうしても否めません。逗子アートフェスティバルに関わっていないよ、全然知らないよっていう市民が圧倒的に多数だということ踏まえて、「a. 順調である。」、「b. 概ね順調である。」、「c. 順調であるとみなせない。」のうちの、「a. 順調である。」か「b. 概ね順調である。」にするかというところで、再度確認のご意見をください。

<山崎委員>

評価できることがたくさんあって、期待したいこともたくさんあるので、限りなく「a. 順調である。」に近い「b. 概ね順調である。」という判断をしています。

<委員長>

頑張ってくださいという期待を込めて、「b. 概ね順調である。」にしましょう。非常に頑張ったと高い評価をしつつ、しかし、特に市民活動がもっと活性化していくためには、来年ももっと頑張ってもらいたいと思います。それでは、②市民の文化活動の活性化については「b. 概ね順調である。」とします。逗子アートネットワークの活動を高く評価しつつ、さらに、より広い市民の方との連携を図ってほしいという形での評価をお願いします。

③ 文化芸術に接する機会の拡充について

<事務局>

11 ページの 1 番下の委員会の評価の欄になります。こちら、「a. 順調である。」、「b. 概ね順調である。」、「c. 順調であるとみなせない。」の評価につきましては、4 名皆様全員で「a. 順調である。」ということですので読んでおります。内容について読み上げます。

- ・感染症対策を講じ、鑑賞機会の拡充、電型プログラムが実施されたことの意義は大きい。
- ・いずれも来場者の満足度が高く、新型コロナウイルス感染症拡大により社会全体が閉塞感に包まれる中で、文化芸術を楽しむ要求が若干されたことも理由の 1 つと考えられる。手話ワークショップや、障がいのあるなしや年齢等の垣根なく混じり合う「みんなでアート 2022」や、親子対象の「こどもオペラ 3 匹のこぶた」など、社会包摂型の事業の取組は高く評価したい。
- ・親子対象の子供オペラ 3 匹の子豚、「HANDSIGN 手話パフォーマンス LIVE」と社会的包摂型のえー事業の取組は高く評価したい。
- ・0 歳から入場可能なファミリー公演 2 企画の実施は、基幹計画重点事業に掲げるアウトリーチ活動の推進を後押しする効果的な取組と考えられる。
- ・今後も様々な文化芸術活動に接する機会の少ない人へのさらなる機会の提供に期待する。

<委員長>

評価は皆さん「a. 順調である。」なので評価は決まっていると思いますが、文章の内容を確認したいと思います。

<山崎委員>

前回、私がアンケートを拝見したいとお願いしてお手間おかけしましたけれども、拝見できてとてもよかったです。事業がどのように受け止められているかよく分かりました。ありがとうございました。

<事務局>

そのままのアンケートで申し訳ありません。

<委員長>

アンケートの結果は、最初の3か月ぐらいしか見てなかったのですが、3つ程見て、評価自体は結構高い方でした。これについては、特に異議がなければ評価「a. 順調である。」で確定させていただきますが、よろしいでしょうか。

④ 文化資源の活用による地域づくりについて

<事務局>

15 ページをお開きください。

「b. 概ね順調である。」、「c. 順調であるとみなせない。」の評価につきましては、「a. 順調である。」が3名、「b. 概ね順調である。」が1名になっております。

内容について読み上げさせていただきます。

- ・市の重要文化財指定や文化資源の活用については、自然の回廊プロジェクト推進事業や、フィルムコミッションと市内の文化団体やNPO等との共同連携が図られていることは評価できる。
- ・文化財の活用については、関係部署間の調整が難しい部分もあるが、旧脇村邸の限定公開や昨年度の正力邸や須藤家住宅に引き続き旧本多家住宅の国の文化財登録原簿登録など、徐々に進展しているように思われる。
- ・逗子アートネットワークの活動の活発化や逗子ゆかりのアーティストによる和太鼓、尺八、琵琶、ピアノのコンサート、絵本制作など多数の事業が実施され、人的資源の発掘や事業間の連携が推進されていることが窺われる。

<委員長>

これについてはいかがでしょうか。毎年厳しい評価が多かったのですが、今回結構評価が上がってきてる感じはしています。

<富岡副委員長>

自然の回廊とフィルムコミッションは、経済観光課と連携した事業ですか。

<委員長>

フィルムコミッションは経済観光課ですね。自然回廊は緑政課でしたか。経済観光課でしたか。

<事務局>

両方とも経済観光課が行っております。

<富岡副委員長>

結構フィルムコミッションの件数も多いのではないのでしょうか。

<事務局>

件数は増加していると聞いています。

<富岡委員>

この辺りは評価できると思います。

<委員長>

背景の1つには、コロナ禍が少し収まってきてそういったものも増えてきたってこともあるでしょう。ちなみに撮影場所として、どのような人気あるのですか。

<事務局>

海岸など、自然にまつわる場所が多いようです。

<委員長>

自然、緑、海、川というのが普遍的ですね。

<事務局>

自然をイメージされての希望が多いと聞いています。

<富岡委員>

経済観光課は、それらの事業全体を管轄するのですか。

<事務局>

そうです。商業、漁業等も担当しています。

<委員長>

評価の「a. 順調である。」、「b. 概ね順調である。」、「c. 順調であるとみなせない。」ですが、「b. 概ね順調である。」にしたのは私だけです。これも、「a. 順調である。」と「b. 概ね順調である。」と迷ったところで、この項目は厳しく採点したので、文化財等文化資源の中でも、特に歴史的な資源の活用といったところについては、鎌倉には文学館があっても、逗子には文学館がない、そういう点で、積極的に取り組んでほしいなという期待を込めました。人的資源、自然資源の活用っていう意味では頑張っているのでも「a. 順調である。」にしてもいいなと思います。

⑤ 文化情報の収集と活用について

<事務局>

18 ページをお開きください。「a. 順調である。」、「b. 概ね順調である。」、「c. 順調であるとみなせない。」の評価については皆様4名が「b. 概ね順調である。」を選んでいただいています。内容を読み上げます。

- ・ホールは、SNS のフォロワー増加や既存メディアを通してのパブリシティ活動など、市内外への情報発信に努めている。充実した豊かな暮らしを望む市民へのサービスとしてデジタル技術を駆使した情報の収集と活用は大いに有効であり、ポータルサイトを運用した情報ネットワークの構築等により情報の発信に注力されていることは評価できる。今後は公演情報だけでなく、オンラインによるチケット購入等も ホール利用のサービス拡大や市内の様々な文化情報の収集、発信にも取り組んでもらいたい。

- ・懸案の（仮称）逗子アーカイブは逗子フォト事業の写真公開に留まっているので、次期の計画のなかで実現可能な事業が企画されることを期待する。

<委員長>

これは「b.概ね順調である。」でほぼ一致していますが、その要因というのは、1つは逗子アーカイブのことだと思いますが、他に、オンラインチケット購入についてです。

<山崎委員>

私が書きました。アンケートの中に希望される方がいらしたのですね。美術館でもどこでもオンラインチケット販売がありますので、考えてもいいのかなと思いました。

<委員長>

施設の場合システムがいくつかあったり、コンビニで振り込めばチケットがある。大概の施設で取り組んでますよね。

<山崎委員>

（仮称）逗子アーカイブと（仮称）がありますが、意図は何でしょうか。

<事務局>

当時は近いうちにプロジェクトのような形で進めることを想定したのだと思いますが、具体的な取り組みができていないため、この形が続いてしまっています。

<山崎委員>

このかっこが取れない限り、評価は難しいと思います。

<委員長>

作成中の次期の計画はこの辺についてまだかもしれませんが、どのようなニュアンスになりそうですか。相変わらず（仮称）がつくのか、それとももう完全にこの計画はなくしている方向なのか。

<事務局>

実現可能な内容にしましょうという話です。ご意見をいただいていますので、形を変える形で計画に載せる流れになるかと思います。

<委員長>

仮称は1年ぐらいの計画でしたら仮称でもいいと思うのですが、数年続く計画で仮称のまま途中で取れないっていうのはやっぱりおかしいですね。

<事務局>

現計画が（仮称）なので、時期の計画では仮称を外し、実現可能な事業を載せたい。

ここは「b.概ね順調である。」という形でまとめたいと思います。

<奥野委員>

先程の逗子アーカイブの課題は、次回の会議の時にはこれの進行状況みたいなものをいただくような形になるのですか。

<事務局>

報告書に実績等も含めて書かせていただきますので、そこでのご報告になると思います。毎年ご意見をいただいて、自己評価の中で事業の進捗が見られないというご報告を続けている状況です。

<奥野委員>

何年間もこのままの状態です。次はもう少し具体化されたものが提案されると望ましいと思っております。

⑥ 文化振興のための環境づくりについて

<事務局>

20 ページをお開きください。こちらにつきましては、「a. 順調である。」、「b. 概ね順調である。」、「c. 順調であるとみなせない。」の評価については、「a. 順調である。」が2名、「b. 概ね順調である。」が2名ということで割れておりますので、丸をつけておりません。内容について読み上げます。

- ・感染症対策は十分講じられており、特に利用者への情報提供もきめ細かになされている。
- ・ホール設備についても安全対策がなされ、今後に向けての中長期修繕計画の立案にも取り組まれている。
- ・指定管理業務に対するモニタリングも毎月実施し、指定管理者とホールの運営状況や課題を共有し、解決に向け協議していることは評価できる。また、地元のアーティストを起用して行ったホールの広報活動「ホールキャンパス 2022」や資源の再利用を呼びかける「コロコロキャップ」の設置など、ホールの有効活用に向けた新たな取り組みは、界隈の賑わいの創出にもつながったと思われる。一方で、ホールについては、地域の文化活動の拠点として、バリアフリー化やユニバーサルデザインの導入等に配慮した環境づくりが望まれる。また、行政の文化振興体制の明確化、連携体制の整備という面では、庁内の関係部署との連携は十分進んでいるとは言えず、今後の課題として残っている。今後も、文化を軸にした行政の一体的、組織的な横断体制の確立を目指して努力してもらいたいと思っております。

<委員長>

「a. 順調である。」と「b. 概ね順調である。」で割れていますが、ご意見いただければと思います。

<富岡委員>

「b. 概ね順調である。」にしたんですけれども、ホールに関しては非常に色々な事業の展開とか、指定管理も含めた体制の充実っていうのがなされている。文化振興、活性化を中心とした関係部署との、連携、文化を軸とした行政の一体的、組織横断的な推進体制はものすごく重要な課題だと思うので、ぜひ構築していただければという意味で「b. 概ね順調である。」にしました。

<委員長>

庁内連携は徐々に進んでいるんだろうと思います。情報共有も広がってきているのではないかと思います。国の基本法等々にも努力義務として庁内連携っていうものを進めていくことが記載されている状況の中で、もうひとつ進展してないなという印象もいえないのですが、どうでしょうか。

<奥野委員>

私も「b. 概ね順調である。」にさせていただいたのですが、やはりバリアフリーとかユニバーサルデザインなどの環境作りをしても課題として残っていることがいくつかあるので、ここは「b. 概ね順調である。」じゃないかと思います。

<富岡委員>

逗子は、客観的にすごく文化を軸としていろいろな事業展開していると思います。本当によくやっていると思います。だから、組織的な横断の推進体制を深く進めれば、画期的なものになるのではないかなと思います。ある種のモデルケースになっていくことをすごく期待しています。文化を軸にした行政の一体的、組織横断的な推進体制なんていうのはあまり例がないので、そういう意味でも、ぜひ推進してもらいたいと思います。

<委員長>

取り組みとしては面白いですね。例えば自然の回廊があったり、あるいはフィルムコミッションがあったり、あるいは、文化財の指定等々もあったりだとか社会教育から観光あるいは自然まで、全部繋がった形が文化に繋がっている。これを完成させて、全国のモデルにしてもらおうといいと思いますよ、という形の期待もあるので「b. 概ね順調である。」にしました。

<山崎委員>

今後さらに発展してほしいですね。

<富岡委員>

「a. 順調である。」の方がよりアピールしやすいのであれば、「a. 順調である。」に良いと思います。

<奥野委員>

文化プラザホールの催し物に参加させていただくことがありますけども、利用者は多く、映画会とかコンサートとか、小さい方から結構ご年配の方までいらっしゃる印象です。

<富岡委員>

私も関連団体で使わせてもらいました。非常に使いやすかったですね。

<委員長>

この委員会でもかなり評判が良いですね。交流の場になってきていますよね。図書館があったりと。規模はそんなに大きくないが、文化振興のための1つの場としての仕組みが文化プラザになっており、徐々に連携が深まって、環境作りは進捗していると思います。もう1歩進捗せよという意味で「b. 概ね順調である。」にするか、この5年間進んできたという風に評価をして「a. 順調である。」にするかお聞きして感じたのですが、多数決で手を挙げてみましょう。結構進んできた形で、「a. 順調である。」にしたいという方いますか。

では、「a. 順調である。」で決めたいと思います。ありがとうございます。委員会の評価の文章の中に、事務局の方で修正意見等々を反映してください。

⑦ 評価シート以外の箇所について

<事務局>

評価報告書前半は、特に3の総括についてご審議いただきたいと思いますが、1の趣旨及び2の調査対象に関してのご意見等があれば、改めてお伺いしたいと思います。3の総括は、委員長からのご意見になっておりますので他の委員の皆様からもご意見をいただければと思います。また後日別途ご意見いただくことも可能かと思っております。その他にも何かご意見がございましたらお願いいたします。

<委員長>

ありがとうございます。私の述べた意見は、この2年ほど次期計画にぜひ盛り込んでいただきたいというようなことを書いてありますが、全体の1から6の柱について、皆さんから出た声を集約したものを書くもので、平成30年から令和4年度までの5年間に共通する課題を柱ごとに見たもので、箇条書きにして書いたものです。今回どのような視点から総括をするか、評価シートの方では、柱ごとの評価を書くのがいいのか、それとも5年間の総括的评价を書くのがいいのか、この辺について、ご意見あれば伺いたい。あとは、もう1つ考えられるのが、やっぱりコロナがこの後半において非常に大きな動きで、激甚災害みたいな問題もあるかもしれません。そういうことも含めて、危機対応について。文化施設、アートフェスティバルの様な事業、それから市民のリテラシーだとか子どもや、障がいを持った方の対応、お祭りの様な伝統的な文化の保存方法。今回コロナによってお祭りが中止になって復活できなかったものがあつたのかどうかとか、コロナという経験の総括ということもあり得るのではないかと思います。皆さんのご意見を伺いたいので、どの方向で行くかだけ、まず今日は決めたいと思いますが、いかがでしょうか。

<富岡委員>

やっぱりコロナですね。非常に大きな変化でした。

<奥野委員>

富岡先生と同じで、コロナによってホールが閉鎖されてしまったり、色んな活動ができませんでした。それでもみんな頑張っていました。映画があれば観に行くし、文化祭があれば見に行くし、結構色々やっていました。東逗子の駅前の小さな空き地で盆踊りをしたり、子どもたちのために金魚すくいだったりとか、小さな活動もそれぞれの町でやっているの、やはりそういうのもコロナがもうちょっとあれればもっと発展して行って町の文化に発展していくのではないかと思います。

<山崎委員>

委員長がおっしゃったのは、令和4年度に限っての総括にするか、5年くらいの動きをまとめた総括にするかということでしょうか。

<委員長>

はい。それと3番目に、そのバリエーションとして、特にコロナで得た経験っていうものを整理し、対応した経緯を簡単に述べて、得られた教訓を書くという手もあるなと思っています。

<山崎委員>

やはり令和4年だけではなくて、コロナも含めた総括で良いと思います。今回評価をしている時に順調であるという評価になっていったのは、やはりここ5、6年を知っているからできたことでもあります。令和4年度事業に関する評価報告とはなっていますが、5、6年先や、過去のことも踏まえて総括するのが良いと思います。

<委員長>

総括に関しては、前半は委員会からポイントを上げた上で、後半は、令和2年から始まって、令和2年、3年、4年と、3年間のアートフェスティバル、それから、その他の活動が、どのように変化したのか。その中で、どのように立ち向かって乗り越えてきたか、そして、持続可能な、逗子の文化という

ものを発見していくための今後の教訓としてのヒントを整理して記載するという構成でいきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

<奥野委員>

本当に、地域のお祭りが復活してきたっていうのが、コロナから少し前向きになったなっていう感じがいたします。

<富岡委員>

特にコロナ時に「不要不急」という言葉が流行しましたが、文化事業は非常に大事だと結果としてすぐ主張できると思います。

<委員長>

今日だけじゃなくて、後でご意見をメール等々で自分にお送りしていただいて、それを元に、入力の方でまとめていくっていう形を取っていきたいと思います。

<委員長>

思いつくことがあれば、奥野委員の方から、祭りだとか、人々の繋がり、他にも何かあればお願いしたいと思っています。

<奥野委員>

ホールの催しも今年度は復活されて実施されています。

<委員長>

企画として、アウトリーチだとかそういったものを見ると非常に盛んに行われています。文化の広がりがあるということが大事ですね。それから、地域の方たちが、2、3年中断したお祭りだとか、あるいはちょっとした行事を復活させてきたという話があります。他にどうでしょうか。私は先ほども触れましたが、ずし楽習塾も含めて、高齢化という問題の中でも、コロナの中断から再開できたものは良いと思いますが、再開できていないものもあります。それらについてはどのように協力していくのかなと考えています。それから、富岡先生が言われた連携ですね。特にフィルムコミッションだとか、文化担当の教育委員会や経済観光だとか、色々なところが手を取ってこれからの文化を作っていくための庁内プロジェクト利用していく必要がある気がしますよね。

<富岡委員>

そこは大事だと思います。そういう形で連携ができていけば、結果的に、アーカイブの構築に結びつく形になると思います。

<委員長>

コロナの3年間の記録を明らかにすることも重要です。古い記録だけではなく、まさに私たちが経験したことの記録を残す意味があると思います。

<富岡委員>

ホールが感染対策をしながらも、運営したことは非常に大事なことだと感じます。

<委員長>

コロナへの対応はきちんと記録に残して、良かったことも悪かったことも記録に残して次への教訓にすることがすごく重要だと思いますので、この辺のことを、総括としてはきついかもしれないけど次へ

のあのステップに繋げていきたいみたいな形で整理していただきたいと思います。

<山崎委員>

私は未来を担う世代の人たちの感性教育っていうのかな、それがとても重要ではないかと思います。アート便からホールへと、それが成功しつつありますよね。年々盛んになってきて、そういったようなことについてもちょっと触れていただけると、とったりもします。

<委員長>

これに関して、何かご意見ありますか。

総括の方で、近代美術館と連携した事例だとか、いくつかのヒントになるような形でまとめていただくという形でお願いしたいと思います。総括であってこれからの計画ではないので、こうしたい、こうやるべきだったとは書きにくいですが、今までやってきたことから発展して、ぜひこの辺を今後頑張ってほしいみたいな言い方で言うしかないですよ。

また、部活動の地域移行の問題が結構話題になってきてますが、運動部の方は進んできていますが、文化関係については、合唱・吹奏楽等に一部動きがありますが、吹奏楽の場合は楽器の問題をどうするのが難しく、埼玉県のある市では音楽家協会に協力してもらったりしているようです。東京には、プロとして合唱団で活躍している歌手たち、あるいはオペラ歌手たちが結構住んでますので、そういう人たちが協力してくれると面白い活動ができる。例えば文化団体が全て受けると大変だと思いますが、指定管理者にそこまでやりなさいというのはあまりにもかわいそうなので、逗子に住んでいるアーティストの協力も得て、アウトリーチをもう一步ステップアップできないのかなという気持ちはあります。

<奥野委員>

ホールも貸館として、色々な事業をやられていますが、報告書には上がってこないものもあります。何か別な形でホールの利用者数等を示せたら良いと思います。

<事務局>

ホールの実績について、貸館も含めた全ての内容を把握することは難しい。

<委員長>

毎年の指定管理者の年次報告書にどれだけ利用があったかは全て報告されていると思いますが、報告書は一般の方たちはあまり読む機会が少ないですからね、そのような集計も候補としていく必要があるかもしれません。

<委員長>

今日出た意見の集約はどれほどの時間がかかるか。

<事務局>

報告書では、今日出た総括の項目の中で、特に言われたところとか、これは関係部署と連携とか、その辺りを教えていただければ、それに沿った形でまとめさせていただきたいのですがよろしいですか。

<委員長>

出た意見を基に素案を作ってください、修正なり、あるいは追加していただいて対応していただきたいと思います。今後についてお願いしたいと思います、アンケート結果みたいなものは一部抜粋で良いのですか。

<事務局>

アンケートについては報告書に入れずに、委員会の参考資料とさせていただきたいと思います。あくまでも指定管理者が案件をまとめたものなので、参考資料としてお目通しさせていただきたいと思います。総括等につきましては、こちらから案をお示しさせていただき、皆様のご意見等を反映した評価報告書案を改めて皆様にお送りいたします。ご確認いただいたものを最終案といたします。確定は、例年同様委員長に一任させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

<委員長>

最終案は、私が確認し内容を確定します。総括については、なるべく積極的にご意見をお寄せいただきたいと思います。

<事務局>

ありがとうございました。評価報告書が完成しましたら事務局の方から、教育長に報告し、関係所管にも提供させていただきます。合わせて市のホームページにも掲載いたします。

2 その他

<委員長>

では次に、その他ご意見等がございましたら、お願いいたします。

<事務局>

事務局の方からご報告させていただきたいと思います。前回委員会後、令和4年度対象の、逗子市教育委員会点検評価に関する報告書における外部評価につきましてご意見をいただきました。本委員会では、4つの目標に対してご意見をいただき、8月に教育委員会に最終版を提出いたしました。こちらは、教育委員会定例会で報告した後に議会にも報告する予定となっております。

今後の事業の予定になりますが、逗子アートフェスティバル2023の進捗についてご説明させていただきます。会期は、10月9日（土）から10月29日（日）、企画・運営は引き続き逗子アートネットワークが行っております。今年は、トリエンナーレのため、市から実行委員会に負担金を交付しております。また、文化庁の文化芸術創造拠点形成事業にも採択され、補助金をいただいております。今年は自由企画と連携企画3企画を含む、約40企画を予定しております。逗子文化プラザや、池子の森の音楽祭以外にも旧逗子高等学校や、逗子・葉山駅の南口にある逗子医療センターも会場として、市内各所で様々なイベントを開催予定です。市内にある高等学校3校（逗子葉山高等学校、逗子開成高等学校、聖和学院高等学校）と、横浜市立大学の三浦半島研究会にもご参加いただき、学校連携企画を3企画行います。パンフレットができ次第改めてご案内させていただきます。逗子アートフェスティバルについては以上です。

<委員長>

トリエンナーレの年なので、規模が大きくて、色々あると思います。僕も最近見てないから、ぜひ観に行きます。

他にご意見等々ございますでしょうか。なければ、以上を持ちまして全ての議事が終了いたしました。事務局に戻します。

<事務局>

以上をもちまして、令和5年度第2回逗子市文化振興基本調査・評価委員会を終了いたします。
今年度につきましても、ご協力いただきましてありがとうございました。

3 閉 会

以上